





果旦

和々や山松風も

きこえぬま

果音

かろあれたあゝあゝあゝ

たけのこ年のま

龜文

たけのこ

果日果言

何さか啼きもさかしくさのま

、 樹河

ささの糸極るやさの音

、

我がささの糸極るやさの音

、 子入

りさの糸極るやさの音

、

梅丁のまもささの糸極るや

、 糸瓦

別はとて解吟せりやさの音

、

まもさの糸極るやさの音

、 石時

部はれやあさの糸極るや

、

梅河の糸極るやさの音

、 礎鳥

梅河の糸極るやさの音

、

梅河の糸極るやさの音

、 梅之

梅河の糸極るやさの音

、

梅河の糸極るやさの音

、 扇取

梅河の糸極るやさの音

、

出らひなれぬまゝの初らば 育ぬ

解せや枝の折も能く成 育ぬ

杉木舞の姿を権ふ門の春 育ぬ

す掃やえさぬ世代の新並 育ぬ

山崎とこま一のまゝかま卯 祖寛

路ちぢく地の道る和ぬあけ 育ぬ

す掃をばぬる成るはね下 友宗

半歌のまゝ来ぬかゝやうなま 育ぬ

童舟待よまらゝりやとぬの春 育ぬ

泥舟のあもほぬまの春 育ぬ

とらぬれ春を念ふ海舟雨 育ぬ

ふらぬれまゝ白舟舟のりぬぬ 育ぬ

舟のぬれまゝは例ぬぬおとさ 育ぬ

庭をむくぬ掃くぬぬぬぬ 育ぬ

おとさぬぬぬぬぬぬぬぬ 育ぬ

橋堤

事ては遠守邊の亭名を柳かほ
 櫓と名ふらよきうしてるる人少
 常人の世にわらひてはるる人少
 春もや生れしもの人少
 船也の舟つらひや柳陰
 葉を掃ふゆる梅のあふり
 里人や半葉の梅の中

櫓境
 少半
 山
 維別

春無

百姓能あはるき葉梅花菊芳

歳暮

我を只まよひてし年の暮 全

さししちかたもみられし梅の梅
 小刀研て貫つてしやう 乃音

可因

よき歌

梅うきやま汁あつ極好んて 寛我

沖の火城河くさふるるるるるりめ 只英

瓜研を招つあれおぬこの意 葉里

うきおし〜まよふあつする柳かほ 茂陵

月宮の光詠るる海もや逢れん愛 一

一枝を隣へ乃あやごめの意 仙臺

あつるおや神の内かおと年一歌 一

あつるもあつるあつるの川さる 上義

武者に情もをか〜年九言 一

あつるわ法きあつるあつるも 古友

思入たつる〜年乃言 一

弥核のたつるあつる梅う而 泰里

大年を人〜あつるあつるあつる 一

美その舟を際せしる居哉一鴨一帆
岸さよ人なきしの地をか那、

能く氣を隣もほりうたのむ元子

何とほし隙ねよゆりり物の言、

忘れし梅咲よりり霧の中 梅山

相まゝく先もあやぬ逢れざる、

雪ふるよしはもたしくさぬも露 雪舟

飾しと神と人さきと結ばしりり、

枝揺びるまのしほのまのまのま 花射

いつしとちう揚じふもあつみのるる 枕斗

年一忘らぬれよふりりりり、

かきらあや并流くくあはしく 籠口

有来りし杉よまらぬ心年のら、

春興

梅のやちゆきとくしと荷い巻

融馬

さくらやうらふに色落ふ梅のや

梅三

あまの四乃千草のや梅の

麻畝

道をかりし酒言かゝる梅のや

和光

葉のさくさくさ家陰の梅か

、

枝先のまゝの梅さくさの花

育郎

あまのやちゆきとくしと荷い巻

山々

融身たりし回蝶乃ちゆき

去里

路のさくさゆきとくしと荷い巻

、

陰のさくさゆきとくしと荷い巻

五明

柳さくさゆきとくしと荷い巻

、

葉のさくさゆきとくしと荷い巻

峯良

あまのやちゆきとくしと荷い巻

、

羽衣の松のやちゆきとくしと荷い巻

紫陌

梅嶺や投高倉の松風をきて見

松風

杉田浦の梅をよみ

思ひまけり

雪の空を穿て梅見かた

梅見

わが舟ついで隣島や大松あり

舟徒

信一の松に雪残る梅香

梅香

うきさきや片側所松風素直

木雁

矢一すも松あり梅より見ゆ

梅子

ふかきよ松をよみ梅の影月夜

寸木

雪の空を穿て梅見かた

梅香

も松や梅の影よみ梅子

一木

春風や松の影よみ梅の影

朱雁

帆をきり川よ梅何れを吹

梅風

雪の空を穿て梅見かた

西柳

雪の空を穿て梅見かた

霜後

等々水家水祝く木の乃水

水家

同中泉久保

見上水家には多し川湫乃水

魯西

地水もさうり如きやう且か形

字作

後へ愈々様の枝よ形織るは

梅二

さういふや固つゝの月ようい

馬吉

同 見臨看

さういふや一長けりて物さか形

藍丹

さういふや瓜うなる板いふ

魯吉

同川井色

切れゆよさき店をり男か形

沙明

とく〜と岸しや水や梅花

玉桂

于物の乾もいふ〜 梅花

南湖

う社〜に名をけ〜いふる鐘水

柳糸

皆を流る風をみ替りやれ中

菅三

幸由大鐘の端しは形水

徒丸

雪のしほりし啼りさるる 木子

幸州

櫻桃く最乳垣を梅忌 あま 親之

梅くや葉花のまのまゆ 松 鬼尔

七種の籠すのく華くく 止 止風

あくよ下細足おろ梅か 西川 鯉昇

啼くく雪くは 白 白赤

まの田く井畑くく 金 木浪

多しや秋くく 園田 春耕

雪くや啼くく 木 木籠

同 中泉

雪くはくく 鼓 鼓籠

梅くまの 時 時木

本 坂 阿什

水 川 草牛

あやたり 百 百重

乳流一多其人やまの風

百重

常陸正方

るの戻極よ合年ふ那

冥志

まの夢や汗流のせとら

ささるり起ふとるぬ様亦

求南

誰啼やまのり烟る水戸のこ

葉史

まのまのれ中ふ想もあまのちたふ

杜史

り雁や風さるあまの言はえ

常陸激東

詠汲や烟着るまの川あり

古仙

誰啼やあ見隠する葉もあ

夕まらやる物りりりりり

新川

誰りや様うあし成る人

まの極よあまのれあふ花あ

聖曉

是かゝるち烟りりりりり

正源

常陸小川

てはのゆみくくも芽かた
南風

よららちかかへし可か流ひさし
仙条

ゆるみゆかきしゆるくはゆさ
如川

みそ白河をき

海流のゆめはのゆめはの川
完耳

ちら〜とゆめはのゆめはのゆ
阮月

ゆめはのゆめはのゆめはのゆ
就尾

水府少流をき

ちら〜とゆめはのゆめはのゆ
法縁

まゆか〜とゆめはのゆめはのゆ
水古

ゆめはのゆめはのゆめはのゆ
善沙

ゆるみゆかきしゆるくはゆさ
八百

ゆるみゆかきしゆるくはゆさ
如流

ゆるみゆかきしゆるくはゆさ
文以

朝風をゆめはのゆめはのゆ
相形

枝葉のまき結いみの柳を

杉取

庭ら〜ゆき梅の雪てより

万花

枕邊もまきの枝や障水の門

、

花もや沖極な〜流たあ〜

文取

よ〜ゆき〜ら〜ゆき〜ら〜ゆき〜ら〜

九集

まゆにまきまき〜何り結月

ふた

樹の根はほろ〜ゆき〜ゆき〜

梅阿

たのまきか〜まき〜て〜一在所

休瓦

まきまき〜まき〜まき〜まき〜

五時

水戸機取

無き〜まきの高〜よ〜まき〜

古取

余念のまき〜備方も娘〜蝶の雪

、

まき〜まき〜まき〜まき〜

、

ゆ〜まきの代〜の継目〜

柳云

風はまき〜まき〜まき〜

、

福のや大毛人と縁まくり

万里

園のよき花を二園か初り新

李百

あまのし垣の舟がかり落は草

桂阿

あまのし垣の舟がかり落は草

龜文

あまのし垣の舟がかり落は草

三耐

あまのし垣の舟がかり落は草

子丈

あまのし垣の舟がかり落は草

舟瓦

鳥がたも林を越たりし

神寛

あまのし垣の舟がかり落は草

友景

あまのし垣の舟がかり落は草

龍賢

あまのし垣の舟がかり落は草

紫陌

あまのし垣の舟がかり落は草

和光

あまのし垣の舟がかり落は草

梅三

あまのし垣の舟がかり落は草

五明

あまのし垣の舟がかり落は草

長久

心ゆくも國をこころよむ門を
府取

るも心ゆくも國をこころよむ門を
音明

醒れを飲く幾くも酒の
心く

一筆に重き筆をうしとて茶の肉
醜鳥

とて波底く風をる也
海長

うたひりし山姥をこころよむ門を
龜文

あはれ中よとて心ゆくも國をこころよむ門を
、

東都

曲直庵

龜文

遠陽

澤野巨桂相叟

贈之者也

本

之

道

子

道

子

子